

小中一貫教育の導入が求められる背景

これからの子どもたちが予測困難な時代を力強く生き抜くために

知識の習得だけでなく

変化に対応し次代を創造する力
自らの力で未来を切り開いていく能力

新しい教育内容や学習活動に対応した専門的な学習内容・指導方法の工夫が必要

個別最適な学び

プログラミング教育

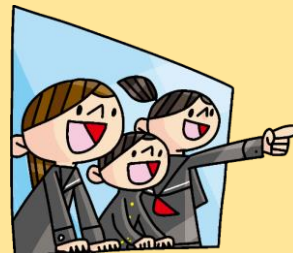
小学校高学年での教科担任制

「小学校と中学校の接続」が重要

築上町教育委員会の「小中一貫教育」とは

小学校と中学校が目標を共有し、小中の教職員が一体と

なって、学習指導や生徒指導等に組織的、
系統的に取り組み、義務教育9年間の連
続性のある指導を行うことで、児童生徒
にこれからの社会を生き抜く確かな学力
と社会性を育成する教育



現状と課題

- 学力や体力の低下
- 人間関係の悩み

- 小学校高学年にな
ると勉強が難しく
なる

- 教科担任制などこ
れまでと違う環境
による戸惑い・不
安

不登校



10歳の壁



中1
ギャップ



児童生徒の課題

- 主体的に学習に取り組む態度
- 集団社会における人間関係を形成する力
- 自己肯定感を形成する力
- 将来にむかって意欲的に自己を伸ばしていく力
- 課題に対して見通しを持って対応する能力



学校間連携の課題

- 児童生徒の学習状況・生徒指導上の課題の引継ぎ
- 学習や生活のルールの共有
- 各教科における系統的な教科指導



基本目標 「21世紀を担う“持続可能な 社会の創り手”の育成」



期待される教育効果

学校と家庭・地域が、9年間の目標や取組を 共有することで

- 一貫したキャリア教育の視点に基づく授業により、子どもが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感し、「確かな学力」の定着・向上が図られます。
- 小1プロブレム、中1ギャップを解消し、いじめ等の問題行動や不登校児童生徒の減少につながります。
- キャリア形成を意識した学びや育ちの系統性・連続性に配慮した9年間を見通す教育課程を編成することで小中の一貫した指導が行われます。
- 小中一貫した指導方針による児童生徒及び保護者の「安心感・信頼感」を向上させます。 など

学びと育ちをつなぐ4つの視点

子どもの学
びをつなぎ
ます

子どもの
心をつな
ぎます

教職員の
意識をつ
なぎます

学校・家
庭・地域と
の絆をつ
なぎます

スケジュール

令和4年度 準備

令和5年度 準備

令和6年度 準備

令和7年度 試行

令和8年度完全実施